

学校経営のポイント

高校野球をヒントに“向上心”の育成を

若井 彌一

8月7日に第1試合、桐生第一高校（群馬）対神港学園高校（兵庫）で始まった第85回全国高校野球選手権大会も試合が進み、23日には頂点に立つ高校が決定するはこびとなっている。

地区大会を含めて全国4163校の代表として深紅の優勝旗を手にするのは、比較的下馬評の高いチームか、それともダークホース的存在のチームか。

運・不運はあるが、基本は実力

今回の大会に初出場したのは49校のうち、羽黒（山形・私立）、木更津総合（千葉・私立）、雪谷（東京都・都立）、長野工業（長野・県立）、香川西（香川・私立）、小松島（徳島・県立）、筑陽学園（福岡・私立）、必由館（熊本・市立）の8校であるが、1回戦で勝ち残ったのは、わずかに小松島と木更津総合の2校だけであった。初出場校にとって、甲子園での1勝がいかに高い壁であるかがよくわかる。

しかし、出場回数さえ重ねれば甲子園で楽勝できるようにになれるかという点、もちろんそうではない。そして、相当の実力があるという下馬評の高いチームが1点差に泣き、あるいは予想もしない大敗を喫することもある。

昨年夏の優勝校・明德義塾（10回目出場、高知・私立）が平安（29回目出場、京都・私立）に、また、今春の選抜選手権大会の優勝校・広陵（17回目出場、広島・私立）が岩国（2回目出場、山口・県立）に、さらに昨年夏の準優勝校・智弁和歌山（12回目出場、和歌山・私立）が常総学院（9回目出場、茨城・私立）に敗れ去ったのは、その代表的な例である。

野球に限らないが、団体競技であれ個人競技であれ、勝負には運・不運がつきものだとよく言われる。

だが、注目したいのは、その運・不運の大きさよりも、チームあるいは個人がふだんの練習で身につけた実力の高さ（程度）についてである。

野球の場合、運・不運の占める割合が大きいと感じられる試合もないとは断言できないけれども、一般的には下馬評の高い実力のあるチームが勝ち残る場合が多く、予想に反してのドラマティックな逆転劇が起きるのは、実力が比較的伯仲しているチームどうしの対戦においてである。

向上心をもたせ、強化する取組みを

スポーツ指導に少しでも携わったことのある人には解説抜きで首肯できることがある。それは、伸びるチーム（伸びる子ども）の場合、「強くなりたい」「じょうずになりたい」「もっと難しいことができるようになりたい」などの意欲が旺盛だということである。

このような意欲（向上心）がない場合、単に計画どおりに練習を重ねても、思うような成果を上げることはできない。向上心をもたせるには、「目標」を明確に意識させ、考えさせ、次にどのようなことを実践するかを決断させなくてはならない。

このような取組みは、スポーツの指導に限ったことではなく、学習活動の指導についても必要である。

各学校においては、新しい学期の開始にあたって、ぜひともこの取組みの重要性を全教職員で確認して、毎日の指導活動において児童・生徒一人ひとりに向上心をもたせ、それを強化するような工夫を試みていただきたい。保護者への連携と協力の呼びかけも忘れないようにしたい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

●新刊案内●

最新刊・好評発売中！

教育開発研究所刊

心を法律で律すべきか

中教審臨時委員であった著者が明かす改正審議の実態

『教育基本法を考える』

市川 昭午【著】A5判 / 定価 2100円
国立学校財務センター名誉教授 / 国研名誉所員

●教基法とは何か / 中教審はどう審議したか / 早急に改正する必要はない / 改正答申に異議あり / どう改正すべきか